

守山企業景況調査報告書

(第 52 回)

令和 4 年 7 月～令和 4 年 9 月期 実 績

令和 4 年 10 月～令和 4 年 12 月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和4年7月～令和4年9月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 68 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	19	12	63.2%
製造業	13	9	69.2%
建設業	12	8	66.7%
サービス業	19	12	63.2%
卸売業	5	4	80.0%
合計	68	45	66.2%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和4年7月～令和4年9月、見通しを令和4年10月～令和4年12月とし、調査時点は令和4年10月31日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDIffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和4年7月～令和4年9月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和4年7月～9月期の調査結果では、業況、採算、資金繰りの3指標の数値が上昇し、売上高は低下した。

<業況>

業況DIは▲8.2で前回調査の▲9.5から1.3ポイント上昇した。業種別では、小売業▲50.0（前回調査比+8.3）、製造業0.0（前回調査比▲20.0）、建設業20.0（前回調査比+7.5）、サービス業▲7.7（前回調査比▲7.7）、卸売業33.3（前回調査比+33.3）と小売業、サービス業は低下し、その他の業種は上昇した。10月～12月期見通しは全体で▲8.2である。

<売上高>

売上高DIは4.1で前回調査の22.2から18.1ポイント低下した。業種別では、小売業▲33.3（前回調査比▲25.0）、製造業18.2（前回調査比▲15.1）、建設業30.0（前回調査比+5.0）、サービス業0.0（前回調査比▲33.3）、卸売業33.3（前回調査比▲16.7）であり、建設業以外の業種で低下した。

10月～12月期見通しは全体で16.3である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲10.2で前回調査の▲25.0から14.8ポイント上昇した。業種別では、小売業▲41.7（前回調査比+8.3）、製造業0.0（前回調査比+10.0）、建設業▲10.0（前回調査比+15.0）、サービス業▲7.7（前回調査比+12.3）、卸売業66.7（前回調査比+66.7）で全ての業種が上昇した。

10月～12月期見通しは全体で▲4.3である。

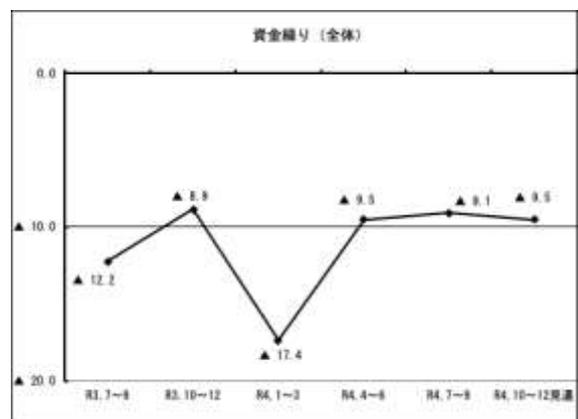
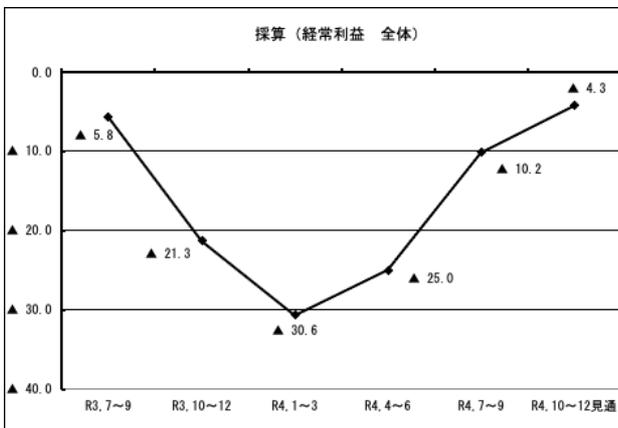
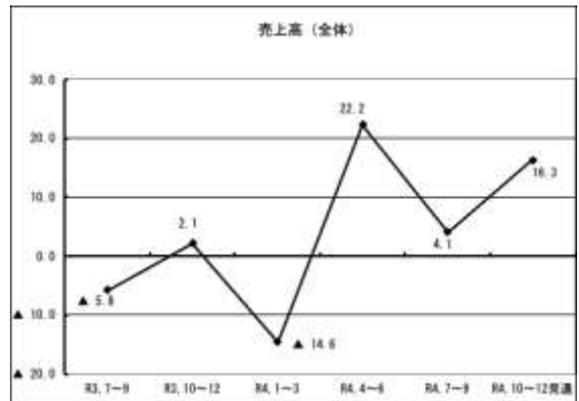
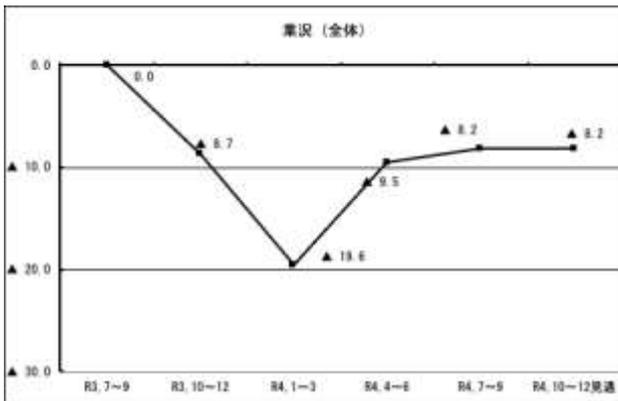
<資金繰り>

資金繰りDIは▲9.1で前回調査の▲9.5から0.4ポイント上昇した。業種別では小売業▲27.3（前回調査比▲19.0）、製造業10.0（前回調査比+22.5）、建設業▲11.1（前回調査比▲11.1）、サービス業▲18.2（前回調査比±0.0）、卸売業33.3（前回調査比+33.3）で製造業、卸売業が上昇した。

10月～12月期見通しは全体で▲9.5である。

<コロナウイルスの影響などの意見>

- ・相変わらずコロナに翻弄されています。12月の予約は少しは増えてきましたが、昨年同様コロナが増えればキャンセルの可能性をはらんでいます。
- ・短期のアルバイトが確保困難です。
- ・仕入価格や光熱費の高騰による価格転嫁で売上げが増えればいいが、消費はケチる方向に行くと思います。



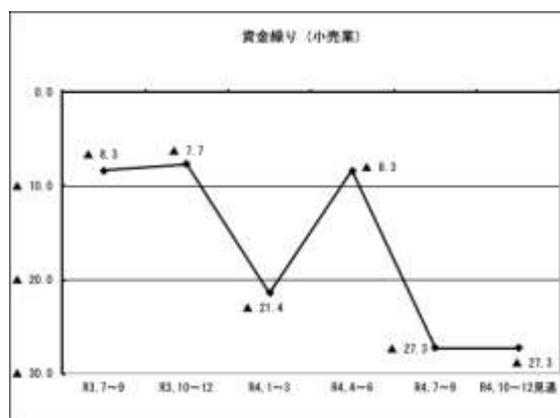
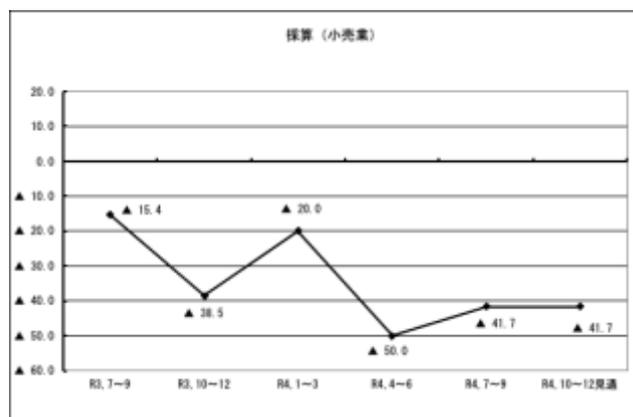
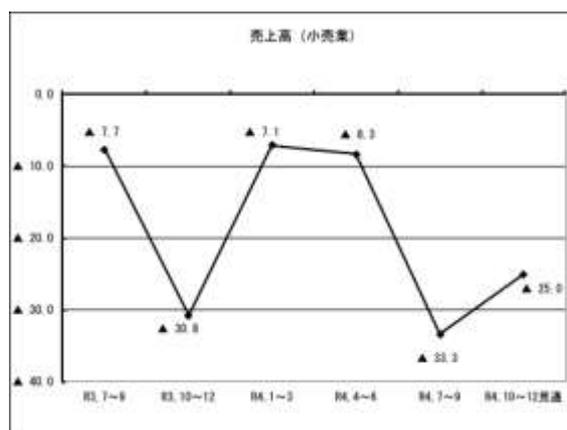
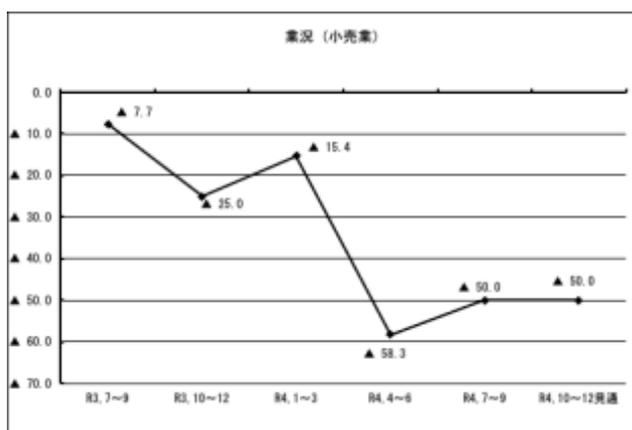
小売業

小売業の業況DIは▲50.0で前回調査に比べて8.3ポイント上昇した。指標としては上昇であるものの前回調査で42.9ポイント低下したそのままの傾向が今回調査でも続いている。10月～12月期見通しでも同じ▲50.0であり、小売業の業況ははっきりと悪いと言える。

売上高DIは▲33.3で前回調査に比べて25.0ポイントの低下であった。前回調査時点での7月～9月期見通しが▲36.4であり、今回調査の実績もこれと近い数値となり、小売業の売上については予想通りの低下と見ることができる。10月～12月期見通しは▲25.0で少し持ち直すものの低い値のままである。

採算DIは▲41.7で前回調査より8.3ポイント上昇した。前回調査で▲50.0まで低下しその傾向をそのまま引継いでいると考えられる。10月～12月期見通しも▲41.7なのでこの先も同様の傾向が続く予想となっている。

資金繰りDIは▲27.3で前回調査より19ポイント低下した。前々回調査が▲21.4で前回調査が▲8.3と資金繰りが前回調査では安定してきたかのように思われたが、今回調査では数値が低下しており資金繰りも低調のようである。10月～12月期見通しも▲27.3なのでこの傾向は続きそうである。



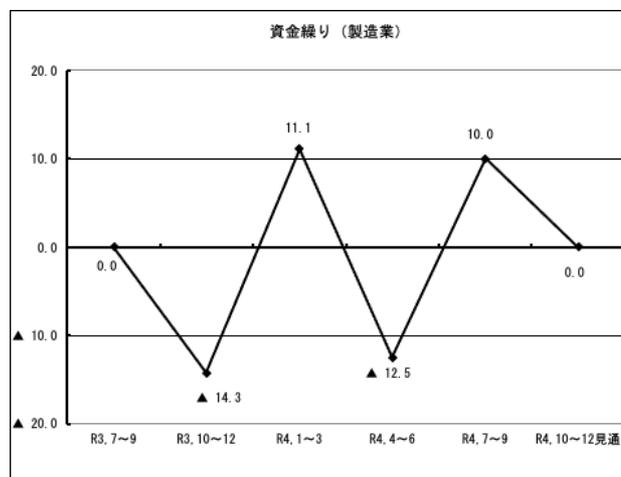
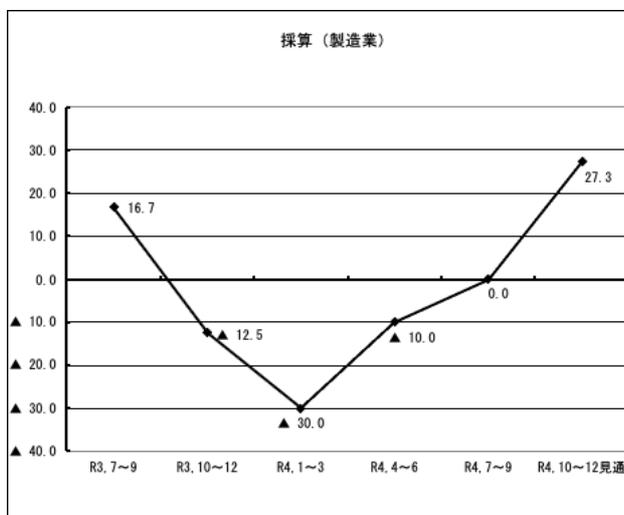
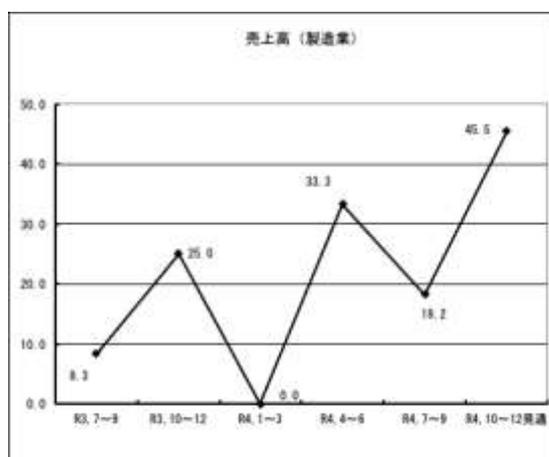
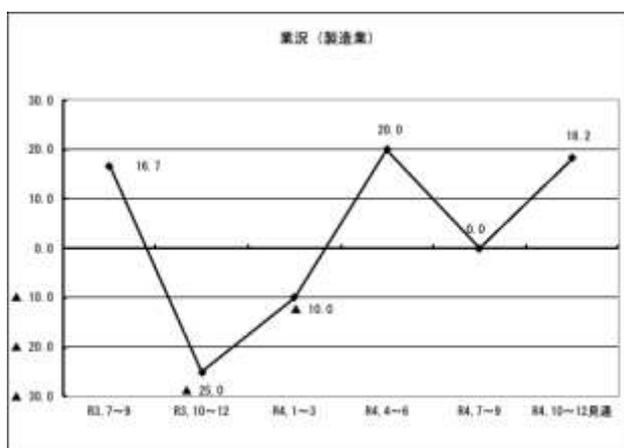
製造業

製造業の業況 DI は 0.0 と前回調査に比べて 20.0 ポイント低下した。2 四半期連続で上昇した前回調査から 20 ポイントの低下と反転してしまったが、0.0 と踏み止まっている。10 月～12 月期見通しでは 18.2 と再び上昇が予想されていることから今回の低下は一時的なものとすることができそうである。

売上高 DI は 18.2 で前回調査と較べて 15.1 ポイント低下した。売上高 DI は過去 1 年を見ると M 字型に変動しており、今回は上昇低下の順であったがその通りとなった。ただ、トレンドとしては右肩上がりで 10 月～12 月期見通しは 45.5 と大きく伸びている。

採算 DI は 0.0 で前回調査より 10 ポイント上昇した。過去 3 四半期のマイナスからプラスに転じてきており、10 月～12 月期見通しは 27.3 とさらに改善していることを見ると、採算は良くなってきているようである。

資金繰り DI は 10.0 で前回調査に比べて 22.5 ポイント上昇した。前回調査で低下した分がそのまま上昇したような形になった。過去 1 年を見ると同様の動きを続けており、今回は上昇の順になったようである。10 月～12 月見通しは 0.0 と低下の順の通りの予想となっている。



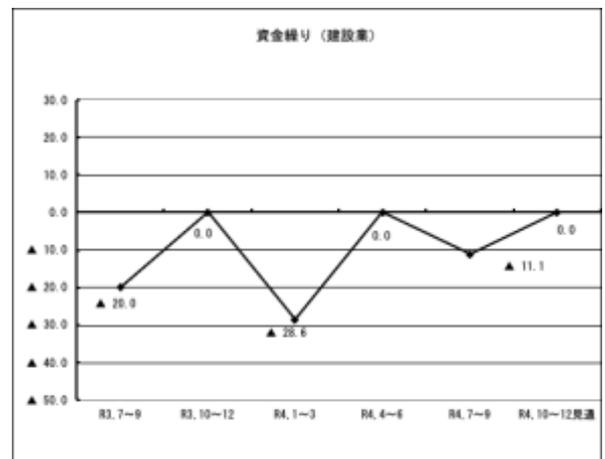
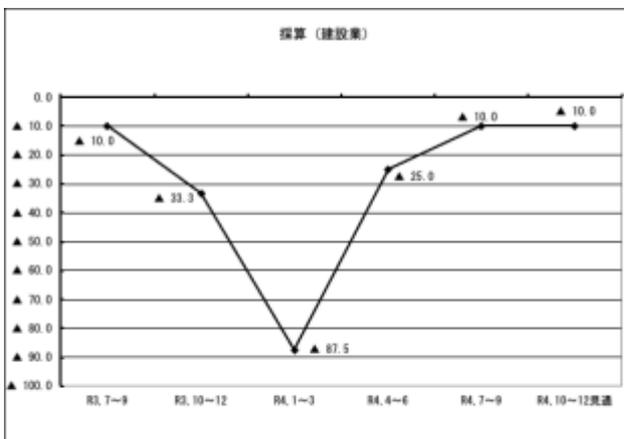
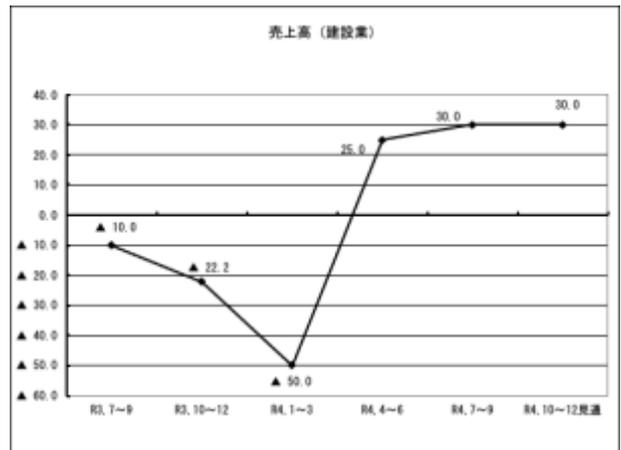
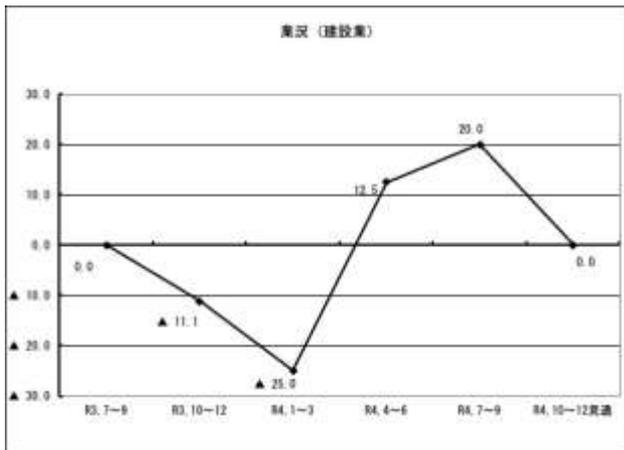
建設業

建設業の業況DIは20.0であり前回調査から7.5ポイント上昇した。これで2四半期連続の上昇となった。1年前の令和3年4月～6月期が▲25.0、続く7月～9月期が0.0とこの時も7月～9月期は上昇したが、今回は数値自体がプラスであり、業況が1年で良くなったと考えられる。しかし、10月～12月期見通しは0.0に戻しており、楽観はできないようである。

売上高DIは30.0で前回調査より5.0ポイント上昇した。一気の回復を見せた前回調査に引き続き数値が上昇している。この傾向はこの先も続く予想がされており、10月～12月期見通しも30.0で売上高は好調を維持できそうである。

採算DIは▲10.0で前回調査より15ポイント上昇した。前回調査で大幅な回復を見せた採算は今回調査でも数値が上昇しており、採算が良化してきていることを物語っている。しかし、まだマイナスの数値なので完全な回復とは言い難い。10月～12月期見通しも▲10.0で傾向は変わらないようである。

資金繰りDIは▲11.1で前回調査より11.1ポイント低下した。過去1年を振り替えると上昇と下降を繰り返すパターンになっており、今回は低下の順であったと考えられる。前々回調査の低下の際には▲28.6であったのに対して今回は▲11.1であり、低下幅が小さくなったと言える。10月～12月期見通しは0.0で上昇が予想されている。



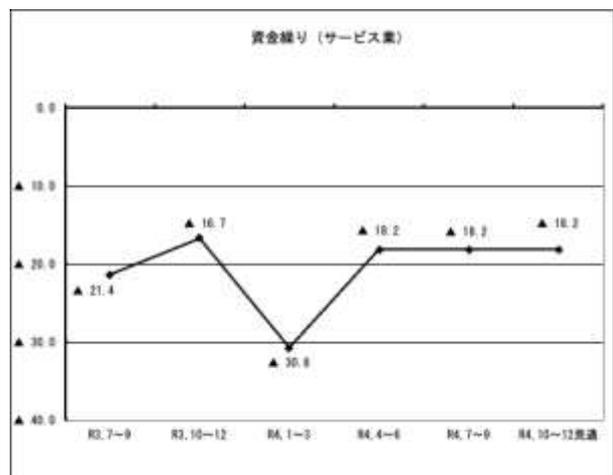
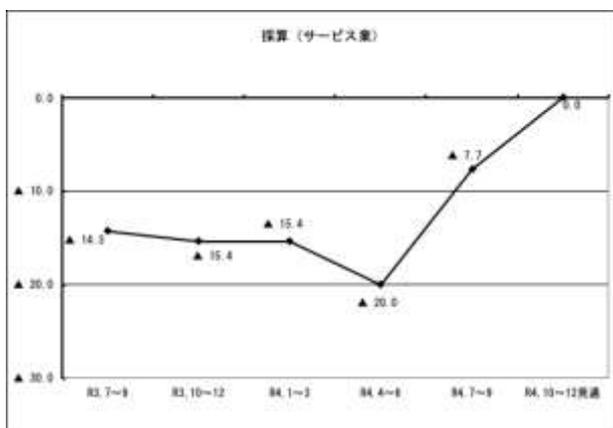
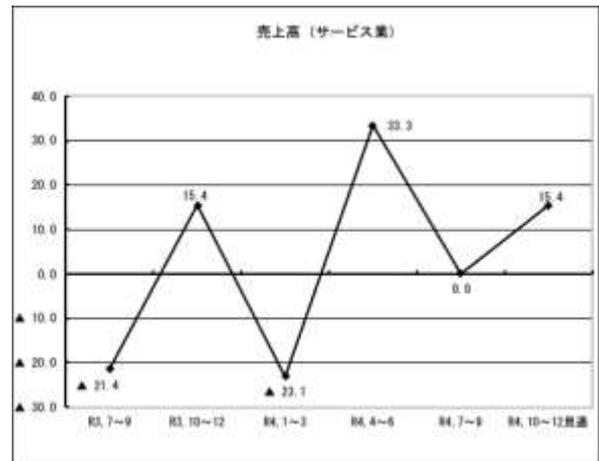
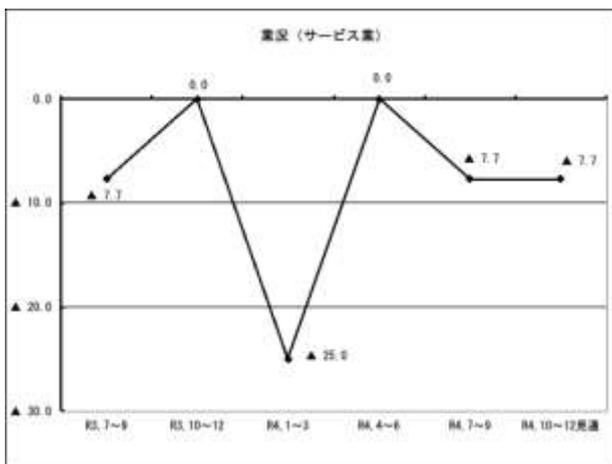
サービス業

サービス業の業況DIは▲7.7で前回調査に比べて7.7ポイント低下した。前回調査時点での7月～9月期見込みが▲10.0であったので、それに近い結果になった。今回の7月～9月期は業況が低下すると折込み済みということだろうか。10月～12月期見通しも▲7.7なので同じような傾向が続くと予想されている。

売上高DIは0.0で前回調査より33.3ポイント低下した。前回調査で大きく上昇したが今回は後退している。前回調査時点での7月～9月期見通しは8.3であったので予想よりも低下幅が大きかった。10月～12月期見通しは15.4と上昇しており今回の低下は一時的なもののである。

採算DIは▲7.7で前回調査に比べて12.3ポイント上昇した。過去4四半期は同じような数値が続いてきたが、今回調査では数値が回復しており、採算の回復基調が見えてきたようである。10月～12月期見通しも0.0でさらに採算の回復が予想されている。

資金繰りDIは▲18.2で前回調査と同じであった。前々回調査の▲30.8が最近では特に低い値となりこの期を除くと資金繰りの数値は大きな変動がない。10月～12月期見通しも▲18.2で今回実績と同じであるので、資金繰りは低位安定のような状態と考えられる。



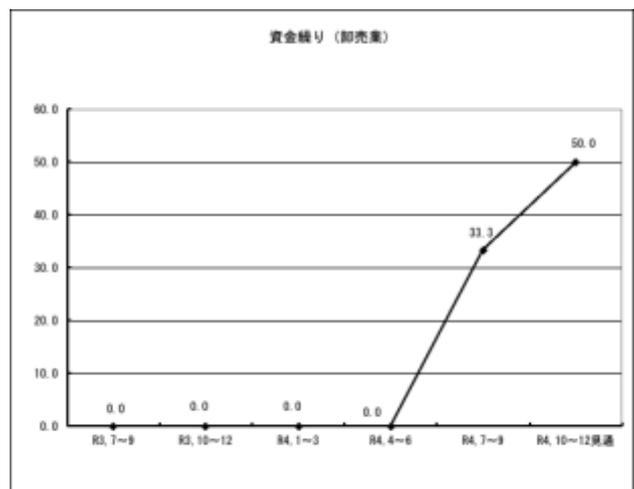
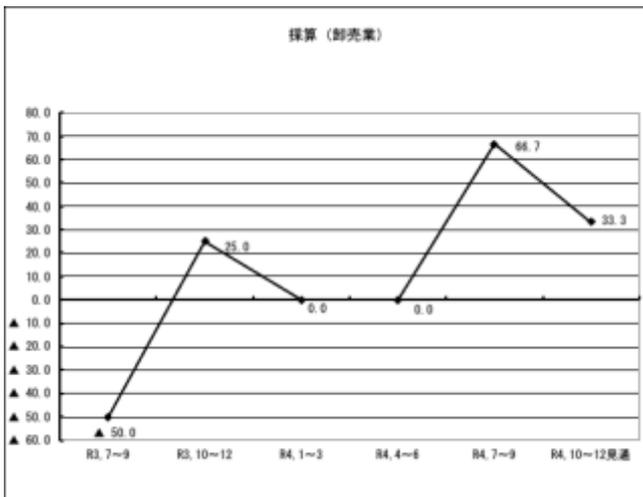
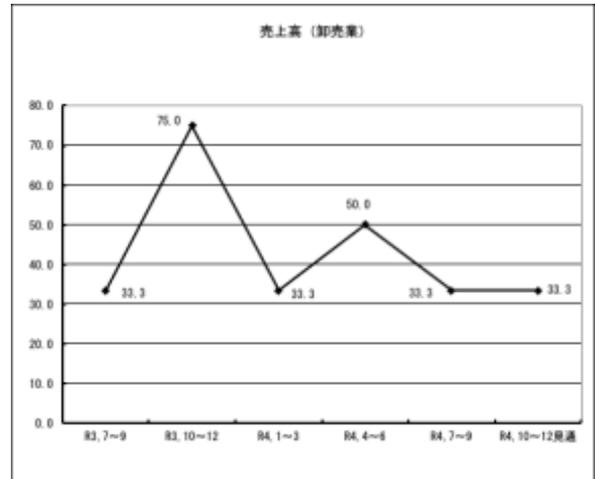
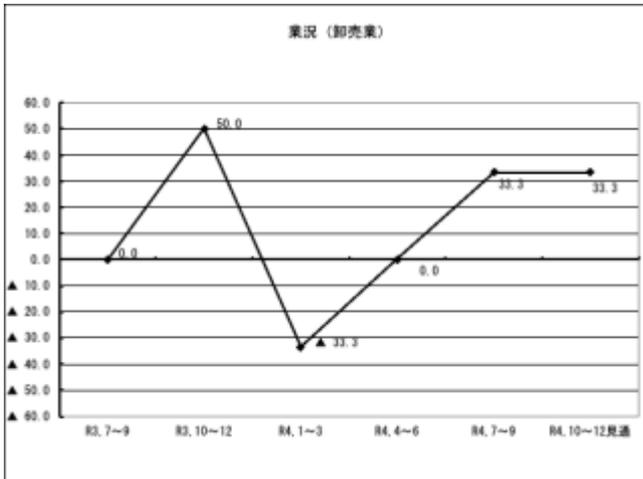
卸売業

卸売業の業況DIは33.3で前回調査より33.3ポイント上昇した。前々回調査の令和4年1月～3月実績が▲33.3でその後33.3ポイントずつ上昇して今回調査で33.3とプラスになった。業況は良いようである。10月～12月期見通しも今回実績と同じ33.3でこの状態が維持されると予想されている。

売上高DIは33.3で前回調査より16.7ポイント低下した。今回は数字こそ低下であるが、過去4四半期から常にプラスの状態であり、売上は好調を維持してきていると考えられる。10月～12月期見通しも33.3であるので、さらにこの状態は続きそうである。

採算DIは66.7で前回調査より66.7ポイント上昇した。過去2四半期連続で0.0であったのでそこからの回復であり、1年前の令和3年10月～12月期の25.0以来のプラス数値である。令和4年10月～12月期見通しも33.3で採算は悪くはないと考えられる。

資金繰りDIは33.3で前回調査から33.3ポイント上昇した。過去4四半期連続で0.0であった資金繰りであるが、今回調査は33.3と上昇し、10月～12月期見通しも50.0とさらに上昇を予想していることから資金繰りの状態は良くなっていると考えられる。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全体	▲ 8.2	▲ 8.2	4.1	16.3	▲ 10.2	▲ 4.3
小売業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 41.7	▲ 41.7
製造業	0.0	18.2	18.2	45.5	0.0	27.3
建設業	20.0	0.0	30.0	30.0	▲ 10.0	▲ 10.0
サービス業	▲ 7.7	▲ 7.7	0.0	15.4	▲ 7.7	0.0
卸売業	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全体	10.4	12.5	▲ 20.0	▲ 17.8	▲ 9.8	▲ 4.7
小売業	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 55.6	▲ 55.6	▲ 25.0	▲ 12.5
製造業	27.3	27.3	0.0	9.1	▲ 10.0	0.0
建設業	33.3	33.3	▲ 10.0	▲ 20.0	22.2	11.1
サービス業	▲ 7.7	▲ 7.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 18.2	▲ 16.7
卸売業	66.7	66.7	0.0	0.0	▲ 33.3	0.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全体	▲ 9.1	▲ 9.5	2.8	5.6	2.9	5.9
小売業	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7
製造業	10.0	0.0	10.0	20.0	10.0	20.0
建設業	▲ 11.1	0.0	11.1	11.1	11.1	11.1
サービス業	▲ 18.2	▲ 18.2	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

